

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 11月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4270102041
法人名	社会福祉法人 致遠会
事業所名	グループホーム サンハイツ城栄
所在地	〒852 - 8034 長崎市城栄町26番27号 (電話) 095 - 842 - 5585

評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855 - 0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年11月15日	評価確定日	平成20年1月10日

【情報提供票より】(H19年10月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年 9月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 常勤 2 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	41,600 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	330 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月25日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低 78歳	最高 95歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人緑風会 長崎みどり病院・松尾歯科医院
---------	------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、閑静な高台の住宅地の一角に位置し、近くには商店街、公園、神社などがあり、利便性が高い。既存のユースホステルを改装し、日当たりもよく、暖かな家庭的な空間となっている。敷地内には一畳ほどの花壇があり野菜を栽培されて手頃に土いじりが出来る。身体機能の維持、向上を目指し、ホーム内外の階段昇降を意欲的に行っている。母体法人のバックアップも大きく、地域交流も盛んで、自治会をはじめ、地域住民からの信頼も高い。管理者を中心に支援される側から、主体性のある生活への転換に向けた取り組みを積極的に行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善計画シートの活用はなく、具体的な取り組みが明確とは言えない。今後、改善計画シートを活用し、改善項目の分析、優先順位の明確化、目標の設定、具体策、評価を職員全体で取り組み、介護サービスの質の向上に努めていくことに期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>様式が変わったことや、人事異動などにより、今回の自己評価に対する取り組みは、管理者側で行っており、スタッフの取り組みは十分とは言えない。職員全体で取り組むことにより、日々の介護の振り返りとなる為、今後積極的に実践し、活用することを望む。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>会議の必要性を十分理解しており、会議での討議内容の結果、念願の看板設置を行い、サービスの質の向上に繋がっている。今後、さらに自己、外部評価の結果を踏まえ、市町村との連携を強化し、さらなる取り組みに期待する。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>懇親会の中で、家族からの意見の吸い上げは行っているが、意見箱の設置やアンケート、満足度調査など意見を聞きやすい場の環境整備が十分とは言えない。また、人事異動に対する意見や不安の声もあり、最優先課題として、今後、早急に対応策の検討を望む。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>母体法人の協力もあり、行事への参加や教育機関、ボランティアの受け入れなど積極的である。ホーム周辺は高齢者世帯や独居老人も多く、ホームが頼られる存在となるよう、避難訓練への地域住民の参加や介護情報の提供など地域への還元を今後も意欲的に展開していくことを期待する。</p>

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念、方針に基づき、「つれづれなるままに」「おかえりなさい、おつかれさま」をキーワードとし、利用者のペースでゆっくりと過ごすことを意識して、日々の介護に取り組んでいる。しかし、ホーム独自の地域密着を考慮した理念の検討までは、今のところ取り組んではない。		法人の理念、方針をベースに当ホーム独自の地域密着型を意識した理念の再検討を期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の場面や月1回のカンファレンスなどでは、管理者は折に触れ、スタッフへ理念を伝えているが、スタッフの異動などがあり、職員の意識としては、理念の共有化が十分とは言い難い。		管理者と職員が一体となって理念を共有し、実践の向けた取り組みを行うことで、ホーム全体の質の向上に繋がる。今後具体的に取組まれることを望む。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会へは加入している。老人会はホーム側からは申し入れをしたが、住民票がないとの理由から、今のところ加入していない。母体施設主催の行事に地域住民を招待したり、町内の夏祭り、文化祭へ出品し、積極的に参加している。また、小中学校や福祉関係の専門学生やボランティアの受け入れも意欲的である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価、外部評価の意義については管理者レベルでは理解されているが、現場のスタッフは、十分理解しているとまでは至っていない。前回の改善項目については、改善計画シートの活用はなく、具体的な改善に向けた取り組みについては、明確とは言い難い。		今後改善計画シートを活用し、優先順位の明確化、目標の設定、具体策、評価を管理者、スタッフ全員で検討し、取組まれることを望む。日々の介護の振り返りの指針としての活用を期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議開催に当たり、入居者及び家族、関係者へ必要性を十分に説明し、同意を得てH17.1月より開催の運びとなった。日時の設定も参加者の希望を重視し、日曜日の15時からと参加しやすい時間を選んでいる。会議を行ったことでホームの存在や活動を知らせたり、看板を設置することになり、サービス向上に繋がっている。		

グループホーム サンハイツ城栄

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今のところ、会議以外での積極的な関わりを持つ機会は出来ていない。		運営推進会議で顔見知りの関係作りが出来るため、会議以外でも研修開催など情報の共有や市町村の保健センター(保健師、栄養士他)食生活改善グループなどへの相談など、積極的な取り組みを今後、展開して頂くことを望む。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の家族通信を発行しており、担当者が個別に報告する欄を設けており、日頃の様子を知ることが出来ており、家族からも好評を得ている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族との懇親会を開き、意見を聞く機会を設けている。意見箱の設置やアンケート、満足度調査などの具体的な対策までは今のところ、実施していない。		家族懇親会という形だけではなく、家族が主体性を持った家族会の発足、それに向けたサポート体制の強化を今後積極的に取組まれることを期待したい。また意見の汲み取りに向けた対策の検討を望む。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この半年で、定年退職、自己都合、人事異動で半数以上の職員異動があり、理念の共有化や介護サービスの質の維持に苦慮されているのが現状である。利用者や家族からも不安の言葉が聞かれている。		ホーム独自の職員の教育を行うことには限界があり、母体法人との連携を図り、法人全体の取り組みとして、ダメージへの配慮を最優先に検討していく必要であるので、今後の取り組みに期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人での年間計画はあり、職員は参加した場合は研修報告書を作成し、スタッフ間で回覧したりと共有化を図っている。しかし、職員間に介護経験を含め、レベルの格差があり、見合った研修の参加までは、至っていない。		母体法人での研修に留まらず、ホーム内での研修会の開催、職員のレベルに応じた研修内容の選定及び実践を今後前向きに取り組んで頂くことを望む。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内でのグループホームとの交流や連絡協議会などへの参加は可能な限り、対応されている。今後も交流を積極的に行い、介護レベルの向上に活かしていきたいとの意欲を大いに感じられた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族からの相談があった際はまず、自宅へ訪問し、本人、家族の生活状況の把握、信頼関係の構築に努めている。その後、本人、家族に必ずホームを見学してもらい、生活する場であることの動機づけを積極的に支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	開設当初は支援する側、される側という意識が入居者やスタッフの中でも強かったが、すこしづつ主体性を持った生活へと管理者を中心に意識改革を行っている状況である。		入居者に主体性を持たせるような支援体制を強化し、お互いが支え合う関係作りを積極的に維持して行くことを期待する。
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時やモニタリングの際に本人、家族の希望、意向を適宜把握し、本人本位の生活の維持に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当制で、スタッフからの意見を聞きながら、介護計画の立案を行っているが、職員異動もあり、本人、家族、関係者との話し合いや意見を反映した計画の作成とまでは至っていない。		本人の主体性を十分考慮し、本人が出来る能力を最大限に活かした介護計画の立案、実践を行い、本人の残存能力の維持、活性化に努めることを期待したい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは3ヶ月を目途に担当者を中心に行っている。半年に一度は総合的な介護計画の評価、修正を行い、現状に即した計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望にあわせて、外出、外泊支援、通院介助等行っている。今後、具体的な多機能性を活かした支援の強化は今のところ、検討されていない。		別棟に展望浴室のスペースがあるが、安全面の配慮から現在使われていない。発想の転換で近隣には独居や高齢世帯も多く、地域への還元の視点から浴室の開放を行い、地域住民と入居者の交流の場にされると更に良いではないか。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居前からのかかりつけ医への通院介助を行い、医療連携を図っている。内科以外の他科受診などスタッフの人員問題もあり、今後受診支援の検討が必要である。		家族懇親会や個人レベルで受診支援に対する要望を聞き、家族の協力も得ながら、医療連携を維持していくシステム作りが望まれる。
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	H17年、ホーム内でのターミナルケアを行い、看取った経験がある。ホームの方針も今後も希望に応じて、看取りまで対応したいとの意向もあり、家族へ方針の説明はしている。しかし、意志確認書などの具体的な取り決めは今のところ、行っていない。		管理者やスタッフの意思統一を図り、重度化や終末期に向けた方針の共有、介護技術の習得を期待する。また、本人、家族、主治医との方針の共有化を具体化させていくことを期待する。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけも丁寧で、笑顔で接している。記録など個人情報の保管も事務所内に整理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事以外の時間は本人が思い思いの時間をゆっくりと過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	開設当初は家事を手伝う場面がなかったが、管理者、スタッフの働きかけにより、本人の意欲を引き出し、積極的に盛り付けたり、食器を片づけたりする場面が増えている。食事中もスタッフが一緒にテーブルを囲み、会話も多く楽しい食事風景であった。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、浴槽にお湯を張り、本人の希望に応じた支援を行っている。時間の指定もなく、可能な限り、好きな時間に入浴できている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	スタッフのサポートを受けながら、生け花を買い物から生けこみまで本人に行ってもらったり、裁縫を行ってもらったりと役割、楽しみごとへの支援を積極的に行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほぼ毎日のように外出する機会があり、近所に自宅がある入居者は自由に外出したりと日常戸外へ出かけられるよう、支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関横に急な階段はあるが、管理者、スタッフ全員が鍵をかけないケアを徹底しており、万一外出しても、見守り支援で安全に生活できている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立ち会いの避難訓練(夜間想定を含む)年3回実施しているが、地域住民の参加は今のところ、実施できていない。非常持ちだし袋の準備はあり、職員レベルでのシミュレーションは十分とは言えない。		ホームの周辺には高齢者世帯や独居老人も多く、地域住民との協力は必然的であり、ホーム側の地域への還元の間ともなり得る状況である。運営推進会議などでの、協力を依頼し、早急に対策の整備強化が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体法人の栄養士へ定期的に献立を見てもらい、アドバイスを受けている。必要に応じて水分量の記録も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前設置していた共有スペースのソファを撤去して、コタツでゆっくり寛げるスペースを確保し、コタツの上には、裁縫道具や新聞が、自然に置かれ、家庭的な雰囲気を感じた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、趣味の物や本人が使い慣れた家具、畳が持ち込まれていたり、個性のある居室への配慮がなされてある。		